

発行日： 平成29年 8月15日

発行者： 今村証券株式会社

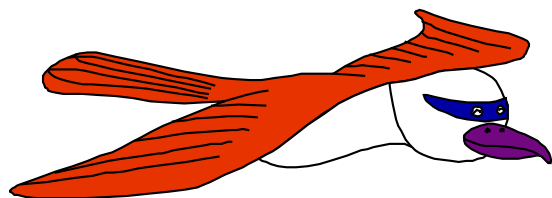
金融商品取引業者 北陸財務局長（金商）第3号

日本証券業協会加入

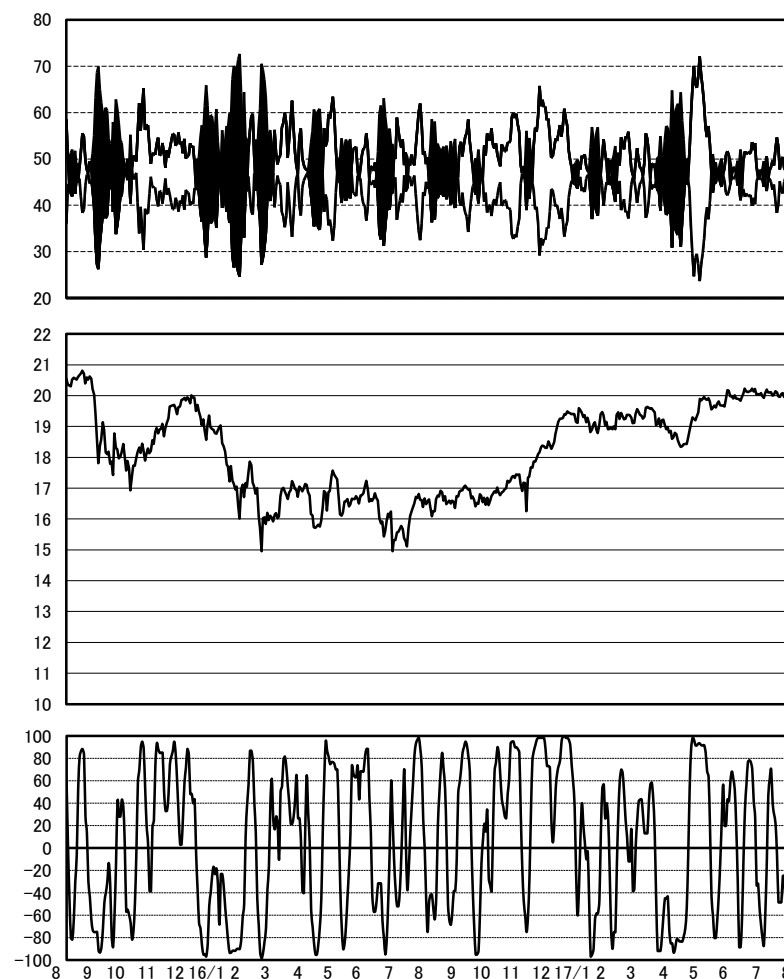
制作責任者： 営業業務部 調査課

情報シャトル特急便

第603号



Dynamic Psychological Ratio 9



上図は騰落銘柄数をベースとした独自のもので、黒の幅が拡大→買い場、白の幅が拡大→売り場
下図はRCI（9日ベース）で、 -80%ラインを上につき抜け→買い場
80%ラインを下につき抜け→売り場

大 所 高 所

トランプ政権がダッチロールしているというのに、先週は米国株が史上新高値を連日更新した。米国内が既成権力とその対抗勢力とに大きく分断している以上、このような混乱は致し方なく、迷走して様々に試す混乱を経なくては新しい合意に至れない、と達観して開き直っているように見える。なにせ米国は、中国やロシアと違って民主主義が徹底している国なのだ。

現在、市場がロシアゲート以上に注目しているのは、F R Bの今後の出方の方だ。景気は順調に回復し雇用状況も好調で、念願の金融正常化に舵を切ろうとしているのは確かだが、景気回復のバロメーターである物価が一向に上昇してこない。…そこで、金利はドンドン上げず、まず保有資産を縮小（テーパリング）して様子を見ようとしているというのが市場の見方だ。

F R Bのしたたかさは、かつてテーパリングを匂わすだけで市場が大きく収縮したのに懲りて、「Q Eで膨らんだ保有資産の半分以上が、準備預金としてF R Bに預けられて市場に出回っていないのだから、少々のテーパリングは問題ない」とアナウンスして動揺を抑えることに成功しつつあることだ。加えて、日本のQ Eは今後も続きテーパリングのショックは十分に吸収される、として市場を味方に付けている。かくして米国株の史上新高値更新は続く、という訳だ。（B I S）

た だ 一 筋

日経平均株価は6月以降から2万円を挟む攻防を続けていたが、先週に北朝鮮が米領グアム沖に弾道ミサイルを発射する計画を表明したことで、リスク回避の動きから1万9500円を下回ってしまった。

ただ、この北朝鮮問題は、金正恩氏とトランプ氏のチキンレースめいた挑発の応酬がクローズアップされ過ぎたせいで、市場がやや過剰に反応しすぎているとの見方もある。また、米国の金融正常化政策（利上げ）を金融引き締めだとして煽っていることと同様、一部の売り方投資家とメディアが騒いでいるだけとの冷静な見方も多い。むしろ、この下落によって、これまでの方向性を見出せない膠着相場に対し、ガス抜きの役割になる可能性もあると前向きに捉えたい。

そこで注目すべきは、先週でほぼ出揃った上場企業の4－6月期決算だ。概ね好業績の発表が多かったが、株価の反応によって①上放れからさらに上値追いの銘柄、②上放れ後、行って来いとなる銘柄、③好材料尽くしで利益確定売りにより下落する銘柄、等に分類されよう。

さて、今後の銘柄選別だが、押し目狙いの姿勢を堅持しつつ3ヶ月後の2Q（7－9月期）決算を睨んでの銘柄選別が重要だ。上記①の銘柄から安川電機（6506）、古河電気工業（5801）、アウトソーシング（2427）などを相場の牽引役として注目したい。これらの買い方は誰なのか？を考えてほしい。

（三感王）

当 たり 屋 見 参

今週連休明けの日経平均株価は3ケタの下落となり約3カ月半ぶりの安値水準となった。北朝鮮を巡る地政学リスクが残る中で円が高止まりしている状況であり、為替が重しになって日本株に売りが出ているようだ。企業の決算発表は概ね好調な内容であったと思われるが、好決算でも一向に上がらない株価に対して投資家のセンチメントが低下しているように感じる。企業の決算発表を終え、材料が乏しくなると、さらに株価は動き難くなることが予想される。

株価チャートの形は、これまで非常に狭いレンジで動いてきたが、若干下に抜けかかっているといった動きである。目先は今年1月から3月にかけてもち合いが続いた19,500円前後が下げに対する抵抗帯になると予想される。その水準を下回ってしまうと下げ幅が拡大してしまう可能性があるため注意が必要だ。

非鉄業種の銘柄に強い動きとなっているものが散見される。リチウム電池の好調を受け業績上振れ期待が高まる住友金属鉱山(5713)、業績上方修正を発表した三菱マテリアル(5711)などである。非鉄業種の中で業績を上方修正する銘柄が相次いでいることから、非鉄の業種指数は既に先週末に高値を更新していることに注目したい。

(枕上厠上)

中 堅 の 視 座

初代 iPhone が発売されてから今年で 10 年。スマートフォンの技術革新が止まらない。来月の発表が噂されている iPhone8。新たな機能としてワイヤレス充電が採用されるのではないかとされている。アップル社がワイヤレス充電方式である「Qi (チー)」の推進団体に加盟したことが判明したためだ。

実現すれば、充電ケーブルをスマートフォンに接続する必要がなくなり、充電器の上に端末を置くだけで充電できるようになるのだ。

そこで注目したいのがローム (6963)。ロームも「Qi」の推進団体に加盟し、企画の策定段階から協議に参加している。そして、サイバネットシステム (4312)。富士ソフトの子会社でコンピューター技術を活用し、設計・製造・工程設計の事前検討の支援を行う「CAE」と呼ばれるツールを手掛ける企業だ。iPhone8 にワイヤレス充電機能が搭載されるかどうかは分からないが可能性は十分にあると思われる。また、ワイヤレス充電はスマートフォンに限らず、電気自動車の充電や、走行中の電気自動車へ道路から電力を送る「走行中給電」の研究も進められており、ワイヤレス充電関連は注目を集めそうだ。

(Guy)

きらきら星

8月前半の株式市場は全体的には方向感がなく指数的には上値が重く、4－6月期の決算内容に個別銘柄が反応する展開となりました。月後半戦も北朝鮮問題は気になるところでありますが、日経平均の一時的な下振れ（売り仕掛け？）があっても、4－6月期で7割強の企業で純利益が増加し、景気が緩やかに回復する欧米など先進国に加えアジアなど新興国の需要も取り込んでいる日本経済のファンダメンタルの良さを考えれば、外部要因で売られた処は絶好の買い場と捉えたいと思います。

GPIFが中小型株成長株を物色し始めており、軟調な日経平均と逆行して新高値を付けてくる銘柄に今後は注目して行きたいものです。また、産業構造の高度化と人手不足の大きな波が来ているロボット関連にも注目したいと思っています。

新高値銘柄から…

古河電気工業 (5801) …5 G関連の大本命、光ファイバー増産

ゴールドウイン (8111) …好決算、スパイバー上場期待へ

ロボット関連から…

ダイフク (6383) …倉庫、物流センターの自動化システム絶好調

安川電機 (6506) …中国向け産業ロボ好調 (WR452)

アナログの俯瞰

膠着相場がついに少しブレ始めた。日本のGDP成長加速、米景気良好持続、日米共に景気自体は良い方向性、若しくは回復に向かっている。経済面ではどちらかと言えば株には追い風だ。しかし、ある一国の歪んだ独りよがりの言動が、政治という面で世界を脅かし、株価に影を落とし始めた。北朝鮮VS米国。北朝鮮の聞く耳持たぬ立て続けのミサイル実験、プラス、メディアを利用した米国への挑発がトランプ大統領の感情を刺激する。北朝鮮プロパガンダが効力を発揮？し始めている。その二国間の盾に位置するのが我が国。「エンド・オブ・ザ・ワールド」、実際、核戦争勃発なら米国、北朝鮮どころか世界が終わる。誰もそれを望まない。

ただ、現実的な目で見れば起き得ない。それを踏まえてこの下落に仕込むべき。また、相場に変化が生じたことで、今後物色対象が変わるかもしれない。好業績中小型株、AI関連を押さえながら大型株の建設、電機など王道も買いの好機到来とみよう。森を見ずに木をちょい見しながら業種という林も見ていこう。

大手建設株で大林組(1802)、東証1部昇格を期待して技術者派遣の夢真ホールディングス(2362)、電子部品のアルプス電気(6770)。

(夏の甲子園に感化され、ノック受けて腰をやらかしたクレイジーゲーマー)

アナリストによる北陸企業便り

(近藤浩之)

＜ハチバン＞

新規事業を2つ始めた。

① ショッピングセンター・フードコートタイプ店舗の出店

3月にイオンモール新小松に出店した。冷凍麺を使用して短時間での商品提供を可能とした。調理方法や食材管理などの店舗運営体制が確立でき次第、首都圏のフードコートに展開していく方針だ。

② パーキングエリアの飲食・物販コーナーの運営

北陸自動車道・徳光パーキングエリア（上下線）内にある飲食・物販コーナーの運営を4月に開始した。自動券売機による注文・精算、セルフサービスのノウハウを蓄積することで、深刻化している人手不足に対応する狙いがある。

2018年3月期第1四半期業績においては、これらの新規事業の影響が出た。売上高の押し上げに寄与した半面、先行費用が嵩んだ。また、野菜など材料の仕入価格の上昇も響いた。しかし、第2四半期以降は新規事業の収益が改善し、通期では2期ぶりに増収、経常増益に転じる見通しとしている。

来期は、首都圏でのフードコートタイプ店舗が本格的に寄与する。1店舗での収益押し上げ効果は限られるが、首都圏で受け入れられれば、成長期待が高まることになりそうだ。

株価は緩やかな上昇基調にあり、今月3日には3,585円と過去最高値（株式分割考慮後）を付けた。当面は新規事業の動向を見極めたい。

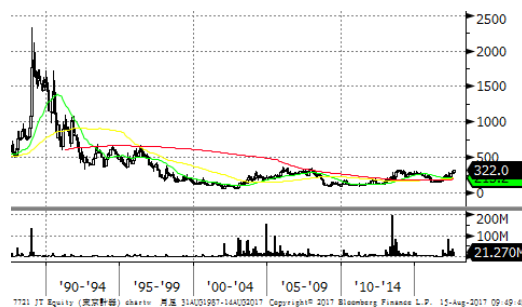
” 僧 中 線 罫 ”

7721 東京計器

週明けの東京株式市場は北朝鮮を巡る地政学リスクが一気に高まり、4日続落となった。北朝鮮にとっては、15日の祖国解放記念日、25日の先早節、9月9日の建国記念日と重要日程があり、また21日からは米韓軍事演習が始まる。9月上旬が過ぎるまでは地政学リスクの懸念が継続されるような状況だ。日経平均株価は13週移動平均を下回り、当面は調整が続く可能性が高い。指標面では、空売り比率は3日連続40%超えだが、騰落レシオ（25日移動平均）は100.12%とまだ高めだ。

このような環境で、新高値を取ってきた東京計器（8月14日終値 322 円（+29 円））に注目したい。航海・航空の計器大手で、防衛関連銘柄。半導体製造装置向けプラズマ生成用マイクロ波増幅器の受注が好調で、今後の業績拡大も期待出来る。チャートを見ると、1989年に2,360円の高値があったが、それ以降は目立った相場はなく、休養十分といったところだ。300円台の低位株で手掛けやすさもあり、今後も株価を追っていききたい。
(ICHI)

月足



週足



出所：ブルームバーグ

* 情報シャトル特急便は、投資家の参考となる情報提供を目的としておりますが、投資にあたってはご自身の判断でなされるようお願いいたします。

株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.1799%（税込）（1.1799% に相当する金額が 2,565 円未満の場合は 2,565 円（税込））の委託手数料をご負担いただきます。株式は、株価の変動により損失が生じるおそれがあります。

非上場債券を当社が相手方となりお買い付けいただく場合は、購入対価のみお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動などにより価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。

投資信託にご投資いただくお客さまには、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費等をご負担いただきます。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資 1 単位当りの価値が変動します。したがって、お客さまのご投資された金額を下回ることもあります。

外国株式・外国債券等は、為替相場の変動などにより損失が生じるおそれがあります。

商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、その商品等の上場有価証券等書面、契約締結前交付書面やお客様向け資料をよくお読みください。